

映画「ケアニン」上映会 & 加藤忠相氏講演会 ～あなたと出会ってよかった～

1部：映画「ケアニン」
～あなたでよかった～

2部：加藤忠相氏講演
～あおいけあ流介護の世界～

3部：意見交換会

日時：2020年1月25日（土曜日）

開場：12時00分～終了：16時30分

会場：宮崎市民文化ホール イベントホール

主催：特定非営利活動法人 宮崎もやいの会

後援：一般社団法人宮崎県介護福祉士会、一般社団法人宮崎県社会福祉士会、
一般社団法人宮崎県日本精神科看護協会宮崎支部、
一般社団法人宮崎県精神保健福祉士協会

連絡先：特定非営利活動法人 宮崎もやいの会

〒880-0865 宮崎市松山1丁目6-7 地域活動支援センターかふえらて内

TEL&FAX：0985-71-0036

E-mail：m-moyai@kag.bbiiq.jp

<http://www.m-moyai.com/index.html>



開催趣旨

少子高齢化の時代において、誰もが高齢化を迎えるなかで、介護の在り方及び認知症に罹患しても住み慣れた地域で過ごすために真摯に取り組んでいる姿を描いた映画「ケアニン」と映画のモデルになった介護施設運営者の加藤忠相氏の講演会を開催します。

映画「ケアニン」は、地域の小規模介護施設で働く若者が主人公で、日々の介護の仕事を通して介護者及び人として成長する姿を描いた映画であり、その映画のモデルになった小規模多機能施設を運営している加藤忠相氏に講演を依頼して、介護の仕事の持つ魅力や地域における支援について講演してもらいます。

介護の世界の問題だからと介護関係者だけの問題でなく、地域福祉に携わっている方達に通底している問題でもあり、高齢者に限らず家族であれば誰もが自分ごととして考えなければならない課題であるのも現実です。

誰もが最期は、納得する人生で終わりたいと思うのが当たり前で、そのために住み慣れた地域でいつもの日常を過ごしたいというのが思いであり、それをどのように実現していくか、その課題に向き合っている施設運営している方達が全国にはおられる中、加藤氏もその一人だと思えます。

地域での支援を考えた時に、他職種の連携によってより包括的に課題解決が可能になるのですが、連携がないために取り残されている人達がいることも現実で、地域によっては積極的に縦割りから横断的な連携を実施して成果を出してきている地域もあるのが現実です。

地域での生活を考えたら色々な課題に遭遇するのは当たり前で、ワンストップで相談を受け、他職種チームで支援するというシステムができることが成熟した地域福祉社会ではないかと考えております。

プログラム

- 1、13時00分～13時05分：主催者挨拶
- 2、13時05分～14時50分：
 - 1部：映画「ケアニン～あなたでよかった～」
- 3、14時50分～15時00分：休憩
- 4、15時00分～16時00分
 - 2部：加藤忠相氏講演会「あおいけあ流介護の世界」
- 5、16時00分～16時30分
 - 3部：意見交換会
- 6、16時30分：終了

映画「ケアニン」のストーリー

「認知症で人生終わりになんて、僕がさせない——」

大森圭（男性・21）は新人の介護福祉士。高校卒業後、これといってやりたいことがなかった圭は、漠然とした理由で介護の専門学校へ入学。卒業後、圭が働くことになったのは、郊外にある小規模介護施設。認知症の高齢者たちと上手くコミュニケーションが取れず、悩む日々が続くなか、圭が初めてメインで担当をすることになったのは、認知症の星川敬子 79 歳。試行錯誤しながらも、先輩スタッフたちの協力もあり、少しずつ敬子との関係性を深めていく。

「なんとなく」で始めた介護の仕事に、いつしか本気で向き合うようになっていく圭だったが…。

・映画のミッション

「自分は尊い仕事をしている」と胸を張るケアニンが一人でも増えること、そして、社会における介護へのイメージが少しでも前向きに変わるきっかけになること、それが、日本の介護の未来をよりよいものに変えていく原動力になると思います。

講師プロフィール

加藤忠相（かとうただすけ）氏

株式会社あおいけあ代表取締役。1974 年生まれ。

東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科卒業後、横浜の特別養護老人ホームへ就職、3 年間勤めた後退職。

平成 13 年、25 歳で起業し、株式会社あおいけあ設立。

「グループホーム結」「デイサービスいどばた」を開所。

平成 19 年より小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」を開始。

平成 25 年 10 月よりデイサービスを小規模サテライト事業に切り替える。

平成 29 年 4 月「おとなりさん」開所。

現在：慶應義塾大学非常勤講師、NPO 法人ココロまち理事長としても活動中。

2016 年 10 月、NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～“あなたらしさ”は、ここにある 介護施設経営者・加藤忠相」

2019 年 9 月、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀▽その人らしさを見つめて 認知症ケアのプロ SP」

・加藤氏の介護に対するスタンス

その人が何をしたいのか？どういう生き方をしてきたのか？何に誇りを持っていて、どういう仕事をしてきて、何食べて生きてきたのか…等、情報を集めて、それらができる状況をつくっていき、その人の能力に頼ること、それが一番のケアであり、自立支援につながると 생각합니다。

今回の映画「ケアニン」上映会&加藤忠相氏講演会に参加申込された方で、申込の動機や期待などコメントを送って頂いたので掲載します。

・初めまして、介護関係に転職の為、現在実務者研修を受講中の介護士の卵の更に手前です現場未経験なので、素敵なケアニン目標を見付けたいと思い、参加させていただきたいと思いました。宜しくお願いいたします。

・参加の動機は、いろんな方との出会い、自分の老後をどうするかを考えるキッカケ期待しております。

・ケアニンの映画もですが、加藤さんのお話を聞くのをとても楽しみにしています。バリバリ保守的な我々の考えを覆していただきたい。期待してます！

・これから私自身も考えていかなければならないことかなと思っています。

・妻は、95歳の認知症の母親をみています。近くのグループホームに入ってはいますが、頻繁に顔を出しています。

妻本人もパーキンソン病があり、明日は我が身。

私も長男で、86歳と81歳の両親がおり、近々直面しますし、誰しも避けては通れない問題なので、申込ました。

・今月で90歳になる母が、横断歩道で転んでから、激変しました。かかりつけ医に訪問看護を要請し、看護の適応はないので往診の上、訪問リハを手配していただきました。残念ながら、これは当たり前ではなく、運がよかったからなのです。私は母にイベントのチラシを渡し、自分のケア関係者に知らせるようお願いしました。少しでも多くのケア関係者や当事者・家族に参加していただき、当事者本位のサービスが、宮崎で当たり前になるようにと願って行動したいと思います

・私は介護職で訪問介護を仕事にしています。

1対1の関係、お互い信頼がないと、なかなかうまくいきません。

今まで認知症の方もいらっしゃいました。脳梗塞で、半身麻痺で車椅子の方。色々な障害から介護を受けられている方もいらっしゃいます。

介護を受けられる利用者さんは、ヘルパーを選ばません。

私は、しっかりと利用者さんと向き合って支援をし、帰る時間に、「また来てね」と言われるような仕事をしていければ最高だと思って日々過ごしています。

そして、自分の母、主人の母の身内介護の難しさ(弟妹との意見相違等で)を今、改めて感じさせられている所です。

映画を見て、加藤さんの講演を聞いて、また改めて頑張りたいと思い申し込みました。

・地域包括ケアシステムを完結するにはどうしても小規模多機能が核になる事が一番だから日南市としてもそれをもっと取り組むためには、今回のケアニン上映と加藤さんの生の声を市役所の職員にも聞かしたいですね、と上映会のパンフレットを市議さんに渡しました。

私は日南市にとりあえず点在している小規模多機能3カ所を10カ所まで増やして、切れ目のない介護の実現と地元で根差した地域づくりをしたいと考えています。困難だから敢えてモチベーションが湧いてきます。

・自分を元気付けることでしょうか。

これから、ますます、どうしようというのが増えていくのだろうということもあり、これからのことを考えて申込みました。

県外の叔母は、歩き回って頭を打たないように椅子に座らされているとか、夜中ベッドから降りないように柵を高くしているとか聞いています。

動きや意欲をなくしてしまうようなことをしているようです。

そのようなこともあり、今回の映画、講演に期待大です。

・個人的には映画や加藤さんの取り組みを講演で聞いて、また仕事頑張ろう！っていう、モチベーションを上げるのが一つですね。

それから、宮崎の県民性というか保守的というか、出る杭は打たれる、長いものには巻かれる、みんな横並びの現状が、医療・介護現場では多く見受けられ、個性を殺してしまう現状や停滞した空気感を感じています。

この機会に宮崎に新しい風を加藤さんに運んでいただき、ちょっとでも今の現状をポジティブに改善したいって思う人が一人でも増えたらいいなと思っています。

・両親が高齢になっていまして、介護が必要になった時に備えて再認識する機会になると考えて申込みました。

あと、妻が、ケアニンと言う映画が観たいと前から言っていたと言う経緯があります。

・加藤忠相さんが実施されている介護のスタイルを少しでも多くの人々に理解してほしい。

認知症高齢者だけでなく、多くの介護を必要としている人が、自由に生きていける社会、そして、介護する側も、色々な自由というものが確立されたら、もっとこころ穏やかに仕事もできると思います。

「笑顔がつきもの！の介護」がしたい。そう願います。